

平成 30 年（2018 年）の秋サケの資源状況について

平成 30 年 6 月 22 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

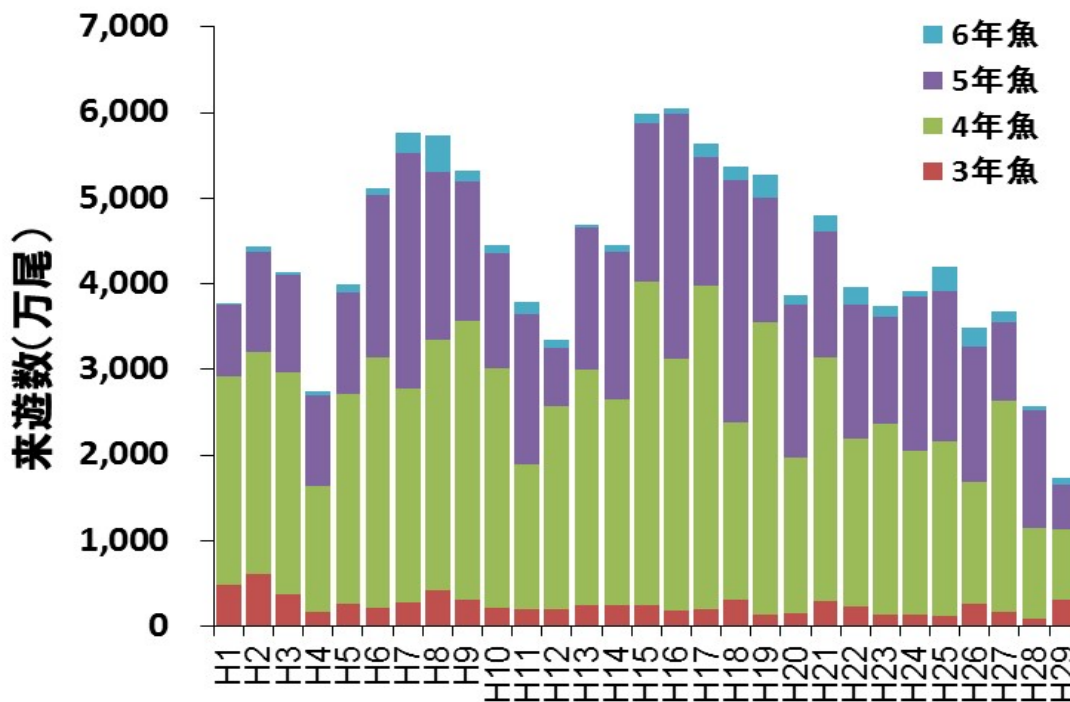


図1 最近の北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

平成 29 年の北海道への秋サケ来遊の特徴

平成 29 年（2017 年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は 1,737 万尾と 2,000 万尾を割り込み、平成以降で最も少ない来遊数に留まりました（前年対比 67.3%、図 1）。

年齢別に見ると、主群である 4 年魚（平成 25 年生まれ）は 814 万尾（来遊数全体の 46.9%）、5 年魚（平成 24 年生まれ）は 516 万尾といずれも平成以降では最も少ない来遊数に留まりました。一方で、3 年魚（平成 26 年生まれ）は 317 万尾と過去 30 ヶ年平均の 264 万尾を上回る来遊数となりました。

時期別に見ると、前期は 753 万尾（前年対比 59.7%）、中期は 839 万尾（前年対比 74.5%）、後期は 145 万尾（前年対比 75.7%）といずれも前年を大きく下回る来遊数でしたが、特に前期での落ち込みが顕著にみられました。

魚体サイズは平成 24 年に顕著にみられた小型化が（平均目廻り 3.10 kg）、平成 25 年には回復し、ここ数年大きな変動はみられていません（平成 29 年；3.43kg）。

各海区への来遊状況

昨年の各海区への来遊数をみると、日本海を除く海区において前年を下回りましたが、特に根室とえりも以東での減少が顕著にみられました。年齢別にみると4年魚は日本海を除く海区で前年を大きく下回り、特に、根室とえりも以東では平成以降で最も少ない来遊数に留まりました。一方、5年魚はすべての海区で前年を大きく下回りましたが、3年魚はいずれの海区でも前年を上回りました。

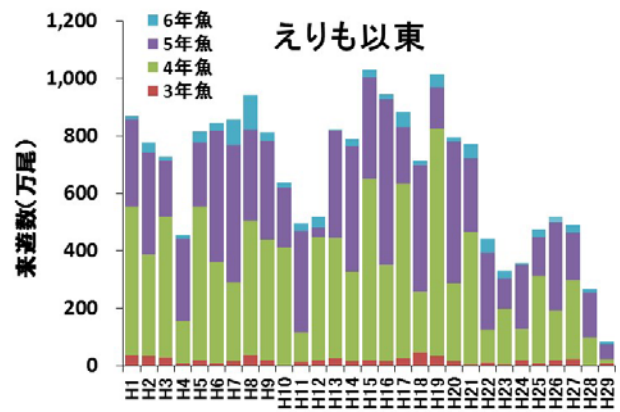
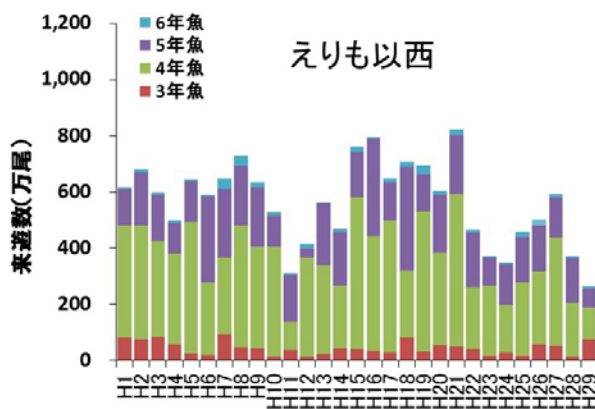
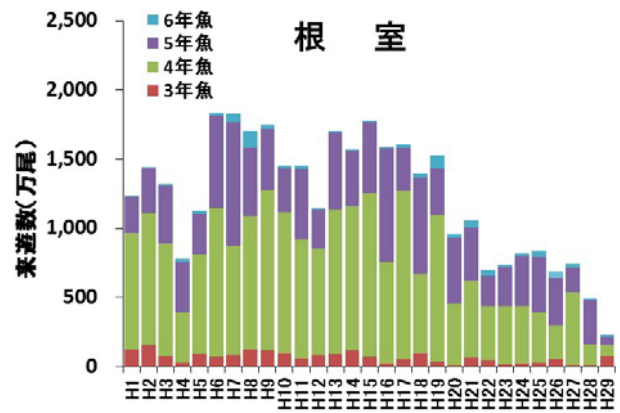
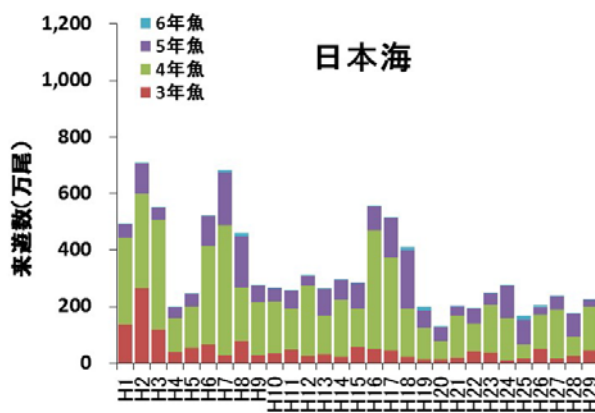
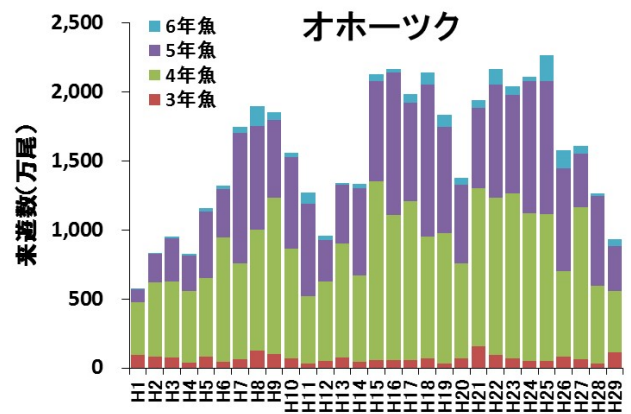
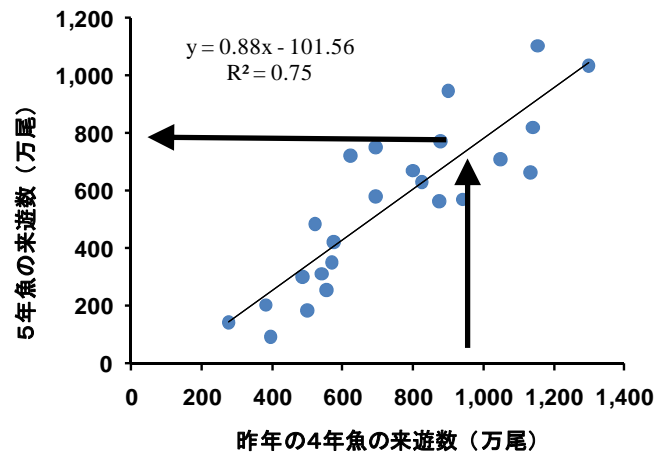


図2 最近の各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(平成30年)の来遊予測

昨年までと同様にシブリング法という手法を基本として今年の来遊数を予測しました。この手法では、昨年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、昨年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します。

平成29年は全道的に3年魚の来遊数が多かったため、今年の4年魚は平年並みの予測となっています。一方、昨年の4年魚が平成以降で最も少なかったため、今年の5年魚は昨年並みの低い予測となっています。



今年の予測値

平成30年(2018年)の全道への秋サケ来遊数は3,136万7千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のようになっています。

海 区	地 区	平成30年 予測値(千尾)	平成29年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	8,681	4,917	176.6
	中 部	3,943	2,481	158.9
	西 部	1,954	1,928	101.3
	小 計	14,578	9,326	156.3
根 室	北 部	4,913	1,835	267.8
	南 部	1,117	453	246.5
	小 計	6,030	2,288	263.6
えりも以東	東 部	616	314	196.2
	西 部	1,140	549	207.6
	小 計	1,756	863	203.4
えりも以西	日 高	2,448	887	276.0
	胆 振	1,513	575	263.4
	噴火湾	1,093	560	195.0
	道 南	968	605	159.9
	小 計	6,022	2,628	229.2
日 本 海	北 部	1,261	901	139.9
	中 部	1,080	875	123.4
	南 部	640	488	131.3
	小 計	2,981	2,264	131.7
北 海 道 総 計		31,367	17,368	180.6